

膿瘍形成虫垂炎の保存的加療 —ドレナージ，抗菌薬について—

わか つき とし ろう やす い ち はる ふく もと よう じ
若 月 俊 郎 安 井 千 晴 福 本 陽 二
ほん じょう そういちろう ひさ みつ かず のり かじ たに しん じ
本 城 総一郎 久 光 和 則 梶 谷 真 司
こう の きく ひろ
河 野 菊 弘

キーワード：膿瘍形成虫垂炎，保存的治療，膿瘍ドレナージ，抗菌薬

要 旨

2011年より膿瘍形成虫垂炎に対して interval appendectomy (IA) を導入し保存的治療を行ってきた。今回ドレナージ，抗菌薬の現状と効果を調べ，今後の治療方針を検討することとした。

2011年1月から2020年12月までの期間21例を経験した。21症例をドレナージ有8例（A群）とドレナージ無13例（B群）の2群に分け，臨床経過，手術成績などについて比較検討を行った。IAは20症例に施行している。原則ドレナージを行う方針にしていたが，ドレーン挿入が困難な症例が半数あり，高齢化に伴いドレーン管理が困難な症例もあり，1例ではあるが合併症も認めた。両群間で臨床経過，手術成績において差を認めなかった。また抗菌薬のみで難渋しドレナージを追加した症例はわずか1例であった。細菌培養では *Bacteroides* 属が全例に認められ，抗菌薬変更が42%に認められた。今後はまず抗菌薬（TAZ/PIPC か MEPM）のみで治療を開始し，難渋する症例に対してのみドレナージを行う方針にしたいと考える。

はじめに

膿瘍形成虫垂炎に対する緊急手術は，回盲部切除など拡大手術になる可能性が高く，術後合併症の頻度も高率であると報告されている。そこで当

院では，2011年より膿瘍形成虫垂炎に対して interval appendectomy (IA) を導入し絶食，抗菌薬，膿瘍ドレナージなどの保存的治療を行ってきた。ただし，膿瘍ドレナージの適応，効果，抗菌薬についての報告は少ないと思われる。そこでドレナージ，抗菌薬の現状と効果を調べ，今後の治療方針を検討することとした。

目的：膿瘍形成虫垂炎に対する保存的加療（ド

Toshiro WAKATSUKI et al.

松江市立病院消化器外科

連絡先：〒690-0045 松江市乃白町32-1

松江市立病院消化器外科